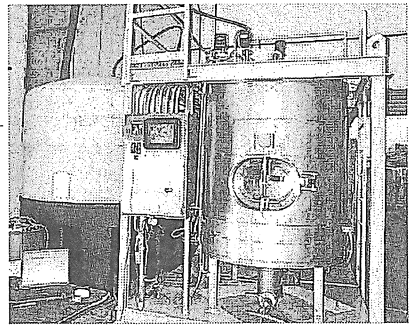


米社製の原発用防護服

処 理 設 備 と セ ッ ト で



使用済み防護服の処理事業にも参入する (米国のプラント)

とみている。
 フラム社の防護服に使われているPVAはゼ氏107・2度以上の水蒸気で処理すると、水と二酸化炭素(CO₂)に分解、放射性物質はフィルタで分離する。すでに処理技術は確立、米国で使用済み防護服の処理プラントも手掛けている。
 福島第1原発事故では放射性廃棄物にあたる使用済み防護服の処理が課題になっており、美浜は防護服とプラントを合わせて東電などの電力会社に売り込む。
 美浜はエアコン用の冷媒やクリーンルームのフィルタなどの化学品を専門に手掛ける商社。

化学品商社の美浜

化学品商社の美浜(東京・港、美浜健社長)は、化学防護関連事業に参入する。米国メーカーと提携し、原子力発電所向けの防護服と処理プラントを売り出す。事故処理を続ける東京電力福島第1原子力発電所のほか、全国原発での利用を見込む。5年後までに年間売上高20億〜30億円を目指す。

原発用の防護服を手掛ける「フラム・セーフティ・プロダクツ」(サウスカロライナ州)とこのほど日本での拡販について基本的に合意した。

日本での独占代理店契約を結ぶ方向で、現在、内容と溶けるポバール樹脂

社は放射性物質の身体への付着を防ぐ化学防護服(PVA)を使っている

のが特徴。
 現在福島第1原発などで使われている米デュポンのポリエチレン製防護服に比べ、水蒸気の透過度が3倍以上高いという。汗を外に出すため作業環境の改善につながる

美浜が取り扱うフラム

社の防護服は、水蒸気の透過性が高く熱処理すると溶けるポバール樹脂